

# 中学生に「将来の夢を」と

## 習志野・八千代両高校が協力 男子バスケット部が真剣プレー

バスケットボールに取り組む中学生が2月19日、県内有数の実力チームである習志野高校と八千代高校の男子バスケットボール部の対戦を、第二中学校体育館で観戦した。

この試合は、コロナ禍で高校生の練習やプレーを



高校生たちのスピードとパワーにあふれるプレー

した。習志野高校顧問の秋元啓人先生と八千代高校顧問の藤橋洋輔先生はともに第一中学校の出身。今回の趣旨に賛同し、秋元先生は「高校生にとってもありがたい機会をいただいた。素晴らしい舞台を準備してもらえたことは僕らがパワーをもらえる機会」、藤橋先生は「元氣よく、楽しんでがんばってやってほしい」と姿を見て欲しい」と試合に臨んだ。

オープニングセレモニーでは、主催者を代表して習志野のバスケットボールを牽引してきた第一中学校の天田正弘校長が両校の協力に感謝を述べ、「NBA、Bリーグで活躍する日本の選手たちは高校の部活動の出身です。中学生にとって高校生が真剣にプレーする



左から藤橋先生、天田校長、秋元先生

ものは、まさに夢につながるものです」と挨拶した。

会場には大ビジョンによる得点ディスプレイが設置され、レフェリーや選手の紹介、アナウンスもあり、Bリーグを思わせる本格的な演出の中、高校生たちはスピードとパワーにあふれるプレーを展開した。中学生たちは熱心にメモを取

りながら観戦し、考えられたプレーに感心していた。試合は互角の戦いとなったが、僅差で習志野高校が勝利した。会場からは両校チームに大きな拍手が贈られ、習志野高校の岡崎大智主将は「公式戦のような雰囲気です。いい試合を見てもらえた」、八千代高校の相川輝主将は「中学生の刺激になっていればよかった」と伝えた。

観戦した中学生を代表して第一中学校の中川誠一さんは「シュート力やディフェンスのハードワーク、一つひとつのプレーが中学生と違って勉強になりました。高校生に近づけるように取り組んでいきたい」、第五中学校の湯口凛さんは「シュート力や迫力がケタ違いで、貴重な体験となりました。」とメッセージした。

ました。コミュニケーション力など学ぶことが多くありました」と述べ、二人は開催に感謝した。

藤橋先生は「将来にわたってバスケットボールに関わってもらいたい。この試合がいききっかけになればいい」、秋元先生は「一年間は天田先生の指導で3年間部活動に励み、全国大会出場ができました。たくさん子どもたちに、部活動でいろいろなことを教えたいと教員になりました。お世話になった人たちの前で、いろいろな刺激をもらいましたし、中学生には少しでも何か感じてもらえればよかったと思います。中学生3年間、全力で部活に取り組み、高校でもバスケットボールを続けてもらいたい」とメッセージした。

# プロダンサーが指導 鷺沼小でダンスの授業



大きな動きで踊る鷺沼小の3年生

鷺沼小学校で2月、文化庁の「文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業)」によるダンスの授業が行われた。

鷺沼小の1年生、3年生、5年生にダンスを教えたのは株式会社演舞麗夢(えんぶれむ)の講師陣。ミュージカルに出演するプロのダンサー、幼稚園で教える先生など多彩なメンバーが、毎年50校以上の小学校で教えている。

大きな手振りを交えたユニークな自己紹介の後は、「間違えて下さい。間違えることで気づくことがたくさんあります。ダンスも芸術、花を描いても一人ひと

り違う。違うことが正解。自分が楽しいと思える時間にして下さい」と伝え、準備運動で柔軟性やバランス力、ジャンプ力高めながら、真似すること、挑戦することの大切さを教えた。

3年生は、運動会で披露する緑黄色社会の「キャラクター」を、大きな動きで元気に練習した。児童は「どうしたらいい動きができますか」などさかんに質問していた。

演舞麗夢の江頭耕治代表取締役は「ダンスを通して『子どもたちの心を解放すること』を目的にしています。どうやら限られた時間で、やる気スイッチをマックスまで引き上げることができるとか。たくさん経験から得てきました」と語った。

# 大自然を感じながら健康に ノルディックウォーク in 上野村



満開の桜の下、ゴール

第8回「ノルディックウォーク in 上野村」が4月8日、習志野市と「健康なまちづくりにおける相互応援に関する協定」結ぶ群馬県上野村で開かれた。

ノルディックウォークは2本のポールを使って歩くスポーツで、上野村では健康増進に役立つと推進している。習志野商工会議所サ

ービス業部会では、上野村から講師を招いてノルディックウォークの体験会を催すなど友好関係を築き、今年「上野村ノルディックウォークツアー」には19名が参加し、相互交流が深められた。

健康イベント当日、桜は満開となり、参加者は自然の息吹を感じながら全長

6.2kmのコースを楽しんだ。終了後には、清流・神流川(かんながわ)に面した特設ステージで習志野出身のフルート奏者の林愛美さんとピアノ奏者の原礼以菜さんが「ふるさと」「花は咲く」などを演奏した。林さんと原さんは「音が山にこだまして、美しい自然を感じながらの演奏はとても神秘的な経験でした。音楽で親睦を深めるお手伝いできたのではないかと感じています」と語った。

サービス業部会の織戸克久部会長は「各地から参加された約250人のみなさんにも演奏を聴いていただきました。大自然に囲まれながら、身体も心も癒されました」と話した。(資料:写真提供 習志野商工会議所サービス業部会)

# 健康づくりにフィットネス 秋津2丁目「秋友会」



みんなで集まり、元気に体操!

秋津2丁目のシニアが集う「秋友会」では毎週、秋津第2団地集会所で開催している「まちでフィットネス」で健康づくりを進めている。

秋友会では「ふれあい広場」でのおしゃべりやまち歩き、お花見といったいろいろな活動で懇親を深めてきたが、コロナ禍で多く

の活動が制限を余儀なくされた。こうした状況に会の代表は「フィットネスや懇親ゴルフは貴重な機会となっている」という。

フィットネスでは、家庭でできる簡単な体操、ラジオ体操、てんとうむし(転倒無視)体操などで身体を動かすほか、脳トレーニングも面白い、血流を良くする方

法や腹式呼吸といった健康に関すること、電話で詐欺への注意といった役立つ情報も伝えられる。リーダー役の西尾明弘さんと中村清和さんは、こうした参加者が語るコミュニケーションの場は、脳の活性化にも役立つと勧めている。

ウォーキングに親しみ、パークゴルフを楽しんでいる女性は「ラジオ体操はしっかりとやるようにしています。きちんと続けていれば、身体が固くなりませぬ。日頃から柔らかくしておけば、転んだ時に対処できます。毎回続けることがいいと思います」と話した。

ゴルフ愛好家の80歳代の男性は「毎週2回の体操のほか、運動、入浴、カラオケを組み合わせて、努めて

# 歌声イベントに集う 奥貫亜矢子さん主催 昭和歌謡で盛り上がる



リードする奥貫さん

参加型の歌声イベント「歌声」の活動も展開している。今回の「歌声ラボ」にはみんなで童謡・唱歌や懐かしい昭和歌謡を歌おうと世代を越えて20人が集まった。

準備運動で歌う姿勢を整えた後は「自分のペースで参加して下さい。音程も歌い出しも間違ってもいいです。歌詞も間違っても問題ありません」という奥貫さんの言葉と伴奏に励まされ、

外に出かけるようにしています」と身体を動かして、いろいろなことに興味を持つことが健康の秘訣と言う。

毎週水曜日に行われる花の美園の「ポポロマルシエ」の日に行われる青空ラジオ体操には、女性メンバー4名が体操サポーターとして活躍し、多数の会員が参加している。

メゾ・ソプラノ奥貫亜矢子さんによる「歌声ラボ」が2月23日、kasumi-labo(香港6丁目)で開かれた。

奥貫さんはAYA音楽教室を主宰し、音楽家として演奏会に出演するほか、

「歌うことが大好き」と参加した夫婦は「『また逢う日まで』『聖母(マドンナ)たちのラブバイ』がよかった。いい機会でした。聴くだけと思っていましたが、歌う機会があったら、高校生の頃には歌声喫茶に通ったという男性は「みんなで歌って最高です」と話した。